



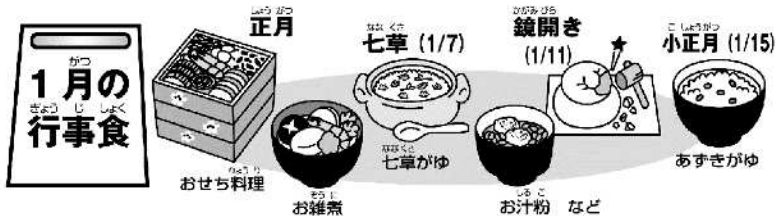
1月給食だより



練馬区立豊玉東小学校

冬休みが終わり、新しい年が始まりました。今の学年で過ごすのも残りわずか・・・「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」というように、この3か月間はいつも以上に時間が過ぎるのを早く感じる時期です。食事をしっかり摂って、健康第一に過ごしてほしいと思います。

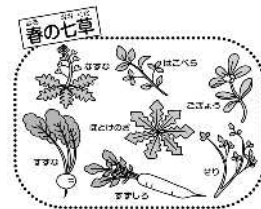
さて1月には、これから始まる1年を無事に過ごせるようにと願いを込めた行事や行事食がたくさんあります。日本や地域、家庭に伝わる食文化を大切に受け継いでいきたいですね。



1月のこんだてより



- 10日「1/7人日の節句」にちなんで七草メニューです。
- 11日「1/11鏡開き」にちなんで白玉団子の入ったお雑煮です。
- 13日「1/15小正月」にちなんであずきごはんです。
- 19日『食育の日』に合わせて、「オリパラ給食」です。



今月は第二回オリンピックが開催されたフランスの料理の紹介です。

- 24～30日は全国学校給食週間なので、給食の歴史を振り返ったり、郷土料理のご紹介。

24日：福岡県の郷土料理のご紹介です。

25日：昭和30年代、当時子供たちに大人気だった鯨肉の登場です。

戦後の給食史で本格的に米飯給食が始まったのは、昭和50年代以降です。

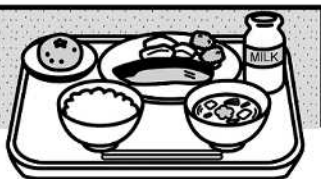
26日：戦後、給食が再開されてしばらくは「脱脂粉乳、コッペパン」といった内容でした。

27日：東京の食材を使った給食です。八丈島から「トビウオ」。『糸寒天』は伊豆諸島が主産地の海藻テングサから作られたものを使います。

30日：日本初の学校給食は「おむすび、塩鮭、漬物」だったと伝えられています。

1月24日～30日

全国学校給食週間



学校給食の歴史



明治22(1889)年に山形県にある私立忠愛小学校で、貧しくお弁当を持ってこれない子どもたちのために昼食を提供したのが始まりとされています。その後、全国へ広まりますが、戦争による食料不足のため、中止せざるをえなくなりました。



脱脂粉乳で作られたミルクは、大きなミルクポットに入れて教室に運ばれました。

戦争が終わり、昭和22(1947)年に学校給食が再開されます。子どもたちの栄養不足を改善するため、外国の支援団体などから届けられた脱脂粉乳や小麦粉、缶詰などを使った給食が提供されました。

※昭和21年12月11日、文部、厚生、農林三省次官通達「学校給食実施の普及奨励について」が発せられ、戦後の学校給食の方針が定まりました。同年12月24日、東京、神奈川、千葉の三都県の学校で試験給食が実施され、この日を記念日としましたが、通常は冬休みのため、1か月後の1月24日から1週間が「全国学校給食週間」になりました。



冬休みのきゅうしょくしつ

冬休みを利用して、給食室も大掃除をしました。食器や機器類、トレー一枚ずつ、壁や床、大きな機械などきれいに磨いて、新年の給食再開を迎えます。本年もよろしくお願いいたします。



冬休みの食生活はいかがでしたでしょうか。冬休み前に、「大晦日には何を食べますか?」「お正月は何でしょう?」と低学年のクラスで聞きました。知っている子にも知らない子にも、「行事食を家の人と楽しんできてね。」と伝えました。今月はまだ11日が鏡開き、15日が小正月と食に関わる行事が続きます。ぜひ話題にしていただけたらと思います。

【学校給食費の徴収にご協力をお願いします。】

今月の振替は1月5日(木)でした。

再振替日は1月16日(月)です。

